

欧米諸国の石油下流部門の動向（サマリー）

戦略・産業ユニット 石油グループ 研究主幹 前田智広
研究主幹 井上浩一
研究主幹 乗田広秋

本稿においては、我が国石油産業と同様の厳しい事業環境に置かれている欧米諸国の石油下流部門の最近の動向を調査した。その中で、まず精製部門においては、欧米諸国では 1990 年代から 2000 年代半ばにかけて製油所の売買が活発に行われ、伝統的なメジャー以外の新興プレイヤーの参入が見られたが、これらのプレイヤーは、必ずしも参入当初に想定していた事業運営を実現させることが出来ず、その事業ポートフォリオの再構成を余儀なくされている。また、精製事業を取り巻く事業環境が厳しさを増し、石油製品の需要構成が変化する中で、製油所の売買や投資をめぐる「選択と集中」が進んでいる傾向も見られる。SS 部門においては、SS 一箇所あたりの量販化・大型化の傾向が顕著であり、この傾向は今後我が国においても進むものと予測される。このような構造的な事業環境の悪化に対し、我が国の下流事業者は、上流部門への投資や本業とも密接に関連する周辺事業への進出を改めて検討する必要があるが出てきている。

お問い合わせ: report@tky.iej.or.jp